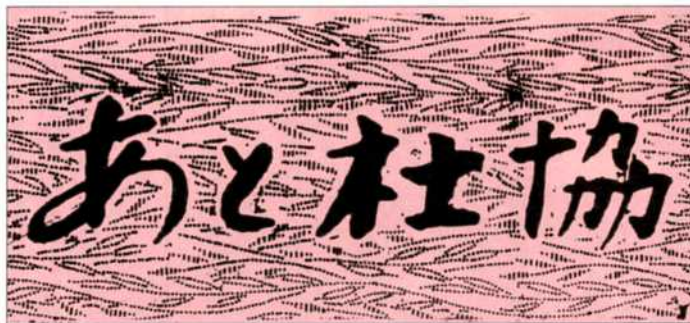




会報第119号

平成23年11月25日発行

阿戸地区社会
福祉協議会
広島市阿戸福祉センター内
電話 856-0294

阿戸町の世帯・人口

世帯数	947戸
人口	2,353人
男	1,161人
女	1,192人

(平成23年10月末現在)



中学生によるお祝いの言葉 (第一部 祝賀式典)



ダンス・キッズ・クラウンの子ども達によるダンス (第二部 祝賀会)



「最高齢は百五歳：阿戸地区敬老祝賀会開催」

阿戸地区社会福祉協議会 事務局長 景山 尚史

猛暑も一段落し、テレビから台風接近が報じられる九月十八日、阿戸福祉センターにおいて阿戸地区敬老会を開催いたしました。今年は阿戸地区最高齢の長和好(百五歳)さんをはじめ九十五名の方々が参加されました。

この敬老会は阿戸地区社会福祉協議会が毎年開催しているのですが、今年から敬老者に配慮して開始時間を三十分早め、三十分開始するとともに、祝賀式典(第一部)と祝賀会(第二部)に分けて行いました。

第一部の式典は、松田社協会長のあいさつに続き、来賓祝辞は広島市長代理で安芸区市民部長の山本様からいただき、来賓紹介がありました。

例年のとおり、中学生には玄関からホールへの案内役を務めてもらい、式典ではお祝いの言葉と箸置きプレゼントをいただきました。特に今年は、橋川萬様から九十五歳以上の十七名に対し額入りの色紙が贈呈され、敬老者代表の竹廣様の謝辞で第一部を終りました。

十五分の休憩をはさみ、山田

連合町内会顧問の乾杯により第二部の祝賀会が始まり、女性会等有志による演芸が披露され、敬老者の長寿をお祝いしました。その中で、四歳から九歳の子供たち九名によるダンスの披露があり、それを子供たちの親も見えており三世代が一堂に会して、それぞれの立場で見守られておられるひと時がありました。そんな光景を見ていたら、以前どこかで聞いた次のような言葉を思い出しました。

・子供叱るな 来た道じゃもの
・年寄笑うな 行く道じゃもの
・来た道悔むな 戻れぬ道じゃもの
・年寄も子供も、子を持つ親にもそれぞれ不満や欲求がありますが、世代間交流を通じて、相手を思うところ、助け合うところ、お互いさまのころを醸成していく必要があると感じました。

演芸の最後は、参加者全員で「ふるさと」の大合唱で締めくくられ、真藤老人クラブ連合会長の万歳三唱に続き、高山社協副会長の「来年も元気で会いしましょう。」で第二部の祝賀会を十二時三十分を終りました。

第一回住民福祉講座

「地域の中での生きがい探し」

高齢者・ボランティア部会 伊藤 広子

七月九日、阿戸福祉センターにおいて、シニアライフアドバイザー波多野俊明先生の講演会を開催いたしました。

当日は、安芸区の行事とも重なり、参加者は二十五名と少し寂しくはありましたが、先生の巧みな話術にひきつけられながら、あっという間に二時間が過ぎてしまいました。

内容は、

①人にもしてもらっただけではダメ。

メ。家でも地域でも役割分担を持つている人は大きな生きがいになる（役割は自分で決めればよい）。

②もう年だからというのとは自分を制限する言葉である。心年齢は七掛で！

③いくつになっただけではなく、いくつに見えるかが大切。

④暇になったらやる、は自分をダメにする最悪の言葉。即、熱の冷めないうちにするのと。

⑤笑顔を出すから幸せになる（幸せだから笑顔が出るのではない）。

⑥頼られる人になる事は、自分を堂々とした人生にする等々。

心当たりのある事をたくさん指摘されしつかり反省しました。「やらないぐせ症候群」にならないために、一日一外出、一日一楽、一日一笑を心がけ、忙しいことに喜びを感じながら日々を送りたいと思います。とても元気の出る講座でした。



第二回住民福祉講座

「視覚障害者への理解と支援方法」

高齢者・ボランティア部会 川崎 博子

去る八月二十日、阿戸福祉センターにおいて盲導犬ユーザーの北崎美枝子さんを講師に、講演とアイマスクを付けて目の不自由な方の手引きの実体験、並びに盲導犬への理解を深めるための講座を開催しました。

当日は四十二名の参加があり、皆さん熱心にメモを執りながら学ばれました。受講された方の感想を一部紹介します。

・目の見えない怖さをアイマスクを付けて実感した。見えない怖さを克服され、前向きに生きておられる北崎さんの姿に感銘し、生きる素晴らしさを教わった。

・盲導犬を連れての行動は、絶対安心安全と思っていたが、利用者が指示をしないと何も行動を起こさないことを始めて知った。これからは困っている人を見かけたら積極的に声をかけようと思う。



・盲導犬と人間との信頼関係の強さがよく理解できた。アイマスクは、よく知っている場所でも大変怖かった。など、目が不自由な方が生活していく上での大変さがよく理解できた。



高齢者と児童館の子ども達との 交流会に参加して

第三区

新崎 徳夫



八月二十四日の「高齢者と児童館の子ども達との交流会」にボランティアグループ「阿戸ほことり会」の方から声をかけていただき出席しました。
少子・高齢化といわれて久しく、私も高齢者（後期）の日常のお付き合いの相手は、ほと

んど高齢者の方です。こんなに生産性の無い者ばかりでは、日本も阿戸も亡びるのではないかと、常々思っていました。
ところが、児童館の子どもさん達とふれあって握手したり抱きしめたりしてみても、世の中、年寄りばかりではなく次世代を担う若者も、いくらでもいるのではないかと、という気持ちにもなりました。幼い子どもさんとも交流し、ピチピチした「エクス」をたっぷり吸収出来たので、これからの元気の糧にしたいと思います。

「邦楽観賞会」

児童・障がい児者部会

高山 義昭

去る七月十三日「中学一年生と高齢者とのふれあい邦楽観賞会」を福祉センターホールにて実施しました。

ふれあいとして日本の古来から伝えられている楽器、琴と尺八の演奏を聴いたり触れさせていただいたりしました。
生徒達は普段あまり聴いたことのない音色に興味深げでした。



最後に生徒達が「つばさをくさい」の合唱を感謝の気持ちでこめ歌って聴かせてくれ本当に心洗われる会になりました。

生徒達から、今回の邦楽観賞会に寄せて数々の感想をいただきました。紹介いたします。

・「富士」の曲が穏やかな曲できれいな音色が印象に残りました。
・琴の音色、尺八の音色が素晴らしいです。また聴かせて下さい。
・少ない時間の中だったけどとても楽しむことが出来ました

中学一年生と高齢者とのふれあい

た。特に琴の音色はきれいでとても感動しました。

・尺八や琴等、珍しい楽器を見て、聴いて、触つて、貴重な体験をありがとうございました。

・私は、体調が悪く行けなかったけど琴や尺八の音を聴いてみたかったです。また機会があれば聴かせて下さい。

この他、沢山の感謝、お礼を頂いております。といってもまだまだ至らないことも多々ありますが皆様のご指導をお願いいたします。



納涼盆踊り盛大に開催

八月十五日の夜、阿戸町納涼盆踊りが盛大に開催されました。打ち上げ花火も三十発と例年より多く盆踊りを盛り上げました。



今年は例年より多くの参加があり踊りの輪も大きく子ども達も多く踊っていました。体協に

よるバザーのテントも人だかりで買うのも一苦労という有様でした。



今年のハイラ



「阿戸地区防犯組合 市長表彰を受ける」

阿戸地区防犯組合 組合長 宇野 耕次

去る十月十二日アステールプラザにおいて開催された「広島市「安全・安心」市民の集い」において「安全なまちづくり功労表彰」を松井広島市長から受けました。「我々の防犯活動が安全な阿戸町作りに貢献した」というのが受賞理由ですが、諸先輩方が築き上げてこられた安全・安心な阿戸町を守るという風土が認められたとも言えるでしょう。

阿戸地区防犯組合はこの受賞におけることなく、地道に防犯活動を継続し更に安全・安心な阿戸町にするため、頑張つてまいりますので、町民の皆様のご協力をお願いいたします。



イトは例年の阿戸踊りに加え、大阪から迎えた河内音頭歌手の「生駒尚子一座」を迎えての、河内音頭も踊った事です。踊り易いステップと手拍子が入る踊りなので、大人も子どもも多くの人が楽しんでいました。

おおいに盛り上がった夏の一夜でした。

(広報部会 宇野耕次 記)



善意の灯

次の方々から、ご寄付をいただきました。この善意は住民福祉活動のため、有効に活用させていただきます。

ご厚志、まことにありがとうございます。

◆香典の返礼にかえて
景岡義照様
横田和子様

◆見舞いの返礼にかえて
横田元洋様
道村由久子様

土居光明様
山縣純世様
國本栄様

◆一般寄付

石徳法良様
阿戸町商工会様

●阿戸社協のつぎ

第一回理事会

第一回評議員会

第一回福祉教育推進会議

第二回理事会

「あと社協」第一一八号発行

第一回住民福祉講座

中学一年生と高齢者の交流会

流会

安芸区地区社協研修会

第三回理事会

第二回住民福祉講座

ふれあいベタンク大会

高齢者と児童館の子ども達との交流会

第四回理事会

敬老祝賀会

共同募金委員会

第二回福祉教育推進会議

中学三年生と部会員による車椅子と高齢者の疑似体験

福祉活動についての勉強会

金婚該当者申し出締切

11/10

10/21

◎毎月(第二土曜日)配食サービスの実施

編集後記

三月の大震災から八ヶ月、今なお不自由な生活を強いられ、いる方が多い中、日が経つにつれ、そんな事があったのかと思える程ここには普段どおりの暮らしがあります。東京へ行く、と、駅、空港、ホテルなどの照明が落とされていて、改めて今年日本が被災したことを実感します。

今年は「節電」の言葉をよく耳にします。「一人では何もできないが一人が始めなければ何もできない」。何でもある時代ですが、少しの我慢と努力を続けていきたいものです。

さて阿戸町では今年も例年通りに敬老会が開催されました。戦中、戦後の苦難な時代を生きて、現在の豊かな日本を築いてこられたお年寄りの方々には敬意を表します。

戦争を体験していない世代が、同じ苦難を迎えないよう、お年寄りから教わった事を後世に伝えなければいけません。大震災にしても、千年後に同じ規模の災害が発生した時にどう対処できるか。実体験してないものがどう後世に伝えるか。伝言ゲームのように後世に薄まって、間違つていくことがないように。改めて教育の重要性を感じています。

広報部会 小森 崇 記